令和７年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　宇多津町社会福祉協議会

令和７年度　宇多津町社会福祉協議会事業報告

１．概　況

人口減少や少子高齢化の進行、家族機能の変化などにより、家庭や地域住民のつながりが希薄化し、社会的孤立や経済的困窮などを要因とする既存の制度の枠組みだけでは対応が困難な課題が顕在化する中、国においては、地域福祉の基盤強化や包括的支援体制の整備など、地域共生社会の実現に向けた取組を推進している。

香川県においても、「包括的支援体制の構築に向けた取組」や「災害福祉支援ネットワークの構築」、「福祉人材確保・育成・定着」、「社会福祉法人・施設等への支援と福祉サービスの質の向上」など、５つの重点推進項目を設定し、社会福祉の新しい動きや取り組むべき課題を的確に把握しながら、関係行政機関、市町社会福祉協議会、社会福祉施設及び団体などとの連携のもと実施されてきています。

このような状況下、宇多津町社会福祉協議会は地域福祉の増進と介護保険事業の担い手として地域における重要な責務を果たすべく職員や関係者が一体となって取組を進めています。

地域福祉の推進においては、地域共生社会の実現を目指し、地域で支え合う体制づくりを推進する「協議体」が関係者による協議を重ねながら相談活動の拡大充実を推進しています。令和７年度の取組としては、各地のまんでがん体操会場への訪問などによるニーズの把握とともにボランティア人材の確保に傾注し、令和８年度からの具体的事業の開始に向けた、支え合いによるお助け体制の構築とサービスにおける登録・申請、実施、報告といったスキームの整理を進めてきました。

社協資産については、運営体制整備を目的とした人件費の増加と運営費・人件費補助金の適正化などを原因として昨年比約１千万円余の減少となり、事業活動支出は、新規職員の補充とその固定化に起因する人件費の増加と今般社会的に対応が求められている情報セキュリティ対策の実施により約６５０万円余の増加となり、令和４年度以降生じていた福祉充実残額も解消されました。今後も利用者等の増加を図ることはもとより、地域共生社会における身寄りのない高齢者等に関する課題に基づく事業など、中期的視野による運営基盤の整備を図る必要があると考えています。

また、社協事務局における職員体制は、職員の固定化が図られたところですが今後も事業展開に見合った人材確保に努めるとともに、職場環境等の改善を図り良好な勤務体制のもと、さらなる宇多津町の地域福祉の推進・拡充に寄与していきたいと考えています。

令和７年度事業等の細部は、次の９項目を重点に実施しました。

（１）地域福祉活動の推進
（２）介護保険事業の充実
（３）障害者自立支援事業の充実
（４）生活困窮者自立相談支援事業の推進
（５）ボランティア活動の推進
（６）福祉関係団体等活動協力と連携
（７）権利擁護の推進
（８）法人運営の強化
（９）その他福祉活動への協力

２．事業経過報告

（１） 地域福祉活動の推進

① ふれあいいきいきサロンの推進

高齢者や障害者等、地域の中で孤立して閉じこもりぎみに暮らしている人たちが、いきいきと元気に暮らせることを目的としてサロン活動を行っている。

年度ごとの箇所数は次のとおり。

年　　度	箇所数
令和　５　年度	２８
令和　６　年度	２９
令和　７　年度	２９

② 共生型サロンの推進

昨年度に引き続き、毎月第1・第3水曜日を定例として、高齢者や子育て中の親子、障害者の方など誰もが自由に集い交流できるみんなのサロン「とも・とも」の活動を行ってきた。

参加者は地域の高齢者が中心となっており、季節に合った作品作りやオカリナの演奏会、ハンドマッサージやマジックショーなどをおこなっている。子育て中の親子も参加できるように、8月には夏まつりや12月にはクリスマスリトミックコンサートなどのイベントを実施してきた。

今後も、子育て中の親子も気軽に参加して交流できる場を企画し、「とも・とも」を楽しみに集ってくださる方々の思いを大事にしながら、今後も地道に活動を続けていきたい。

＜みんなのサロン「ともとも」参加人数＞　（単位:人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親	0	2	0	2	21	0	5	2	8	4	0	6
子ども	0	3	0	4	31	0	5	2	9	5	0	7
高齢者	20	21	21	18	12	16	19	24	21	15	19	20
Vo・ｽﾀｯﾌ	12	12	5	13	20	4	13	7	6	12	5	5
合計	32	38	26	37	84	20	42	35	44	36	24	38

③　地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業

香川おもいやりネットワーク事業を生かし、社会福祉法人、社会福祉協議会、民生委員・児童委員との連携により、何でも相談できる窓口（福祉まるごと相談窓口）を町内に4か所（社協・寿楽荘・いきいき荘・マイルドハート21）設置するとともに、「巡回型福祉まるごと相談」として、民生委員、施設法人及び社協がチームを組み町内のまんでがん体操6か所を訪問し、相談窓口の周知を目的としたチラシ設置の依頼、困りごとをキャッチする取組を行った。

④　各種相談事業の実施

民生児童委員会、弁護士及び身体障害者相談員の協力を得ながら次の６種類の相談事業を実施した。

相談の種類	相談員	相談日	相談実績
一般相談	民生委員・児童委員	毎週火曜日	１件
弁護士相談	弁護士　安西　敦	２カ月に１回	３３件
身体障害者相談	県身体障害者相談員	第３金曜日	１件
介護相談	介護支援専門員、訪問介護員	月曜日～金曜日	０件
ボランティア相談	ボランティアコーディネーター	月曜日～金曜日	１１件
電話・来所相談	社協事務局	月曜日～金曜日	４０件

収入減少などの電話相談は、コロナ特例貸付事業の終了などにより減少傾向のままである。弁護士相談は、１回６人の相談枠であるが概ね 90%余の相談実績であり、件数は前年並みである。

⑤　生活福祉資金の効果的運用

令和２年３月末よりコロナ禍が影響し、収入が減少した世帯への貸付制度として「特例総合支援資金」、「特例緊急小口資金」の制度が追加となり、申請は令和４年９月３０日で終了した。借入者の償還が令和５年１月より１０年をかけて始まっており、引き落としのできない未応答者へ社協職員が電話や訪問調査を行うものである。

＜生活福祉資金貸付事業＞

借入資金の種類	7年度中 新規借入件数	6年度中 新規借入件数
総合支援資金	0	0
総合支援資金（コロナ特例）	0	0
緊急小口資金	4	2
緊急小口資金（コロナ特例）	0	0
臨時特例つなぎ資金	2	0
教育支援資金	1	2
福祉資金	0	0
不動産担保型生活資金	0	0
計	3	3

⑥　日常生活自立支援事業の実施

県社協の委託事業として、高齢者や知的・精神障害者で判断能力に不安がある人を対象に金銭管理・福祉サービスの手伝いを行う日常生活自立支援事業を実施した。年度ごとの利用者状況は次のとおりである。

（単位：人）

年度	高齢者	知的障害	精神障害	その他	計
令和5年度	１３	１１	8	6	３８
令和6年度	１６	１１	6	5	３８
令和7年度	１０	9	9	8	３６

日常生活自立支援事業を利用開始時は判断能力があったが、年数の経過とともに判断能力の低下が見られる方に対しては、成年後見制度への移行など、親族と調整しながら対応していく必要がある。

⑦　高齢者福祉サービス事業の充実

在宅の高齢者及び障害者の日常生活や自立に向けた取組を支援するために次の事業を実施した。高齢者見守り配食サービスについては、高齢者等の見守りという目的を維持していくために、協力していただける配食事業者やボランティアと連携、協議に努めた。今後もボランティアとの連携とその発掘に尽力していく。

区　分	高齢者見守り 配食サービス事業	車椅子貸出事業	「陽だまり」お風呂
令和5年度	6,141食（202名）	３１件	5名
令和6年度	6,229食（182名）	２９件	3名
令和7年度	7,177食（223名）	２４件	0名
備　考	毎週水曜日（月4回）		

また、共同募金の助成金による高齢者見守り活動として、民生委員の協力を得て、年末に80歳以上の一人暮らし高齢者に対し３千円を配布した。

＜高齢者見舞金事業対象者＞

区　　分	一人暮らし高齢者（80歳以上）
令和４年度	２０３名
令和５年度	２１３名
令和６年度	２１２名
令和７年度	２２１名

⑧　ファミリー・サポート・センター事業

＜令和７年度登録会員数、活動件数、援助活動内容と件数の内訳＞

登録会員数 （R7.4～R8.3末）	おねがい会員	３１２名	合計 ４６１名
	まかせて会員	９９名	
	どっちも会員	５０名	
活動実績 （R7.4～R8.3末）	援助活動件数の内訳		活動件数
	①保育施設等への前後の預かり		0
	②保育施設等への送迎		２０９
	③児童クラブへの前後の預かり		1
	④児童クラブへの送迎		１１
	⑤子どもの習い事等への送迎		1
	⑥自宅・祖父母宅への送迎		8
	⑦保護者等の仕事の際の援助		１２４
	⑧他の子供の行事の場合の援助		２３６
	⑨保護者等の外出の場合の援助		0
	⑩保護者のリフレッシュのための援助		69
	⑪保護者等の病気・通院のための援助		30
	⑫公共施設・施設への送迎		2
	⑬保護者等の職場への送迎		0
	⑭他の子供の行事の場合の援助		4
	⑮保護者等の病気・通院のための援助		2
	⑯保護者等の冠婚葬祭・その他急用の場合の援助		0
	⑰公共施設・施設への送迎		0
	⑱他の子供の通院の場合の援助		0
	⑲保護者等の職場への送迎		0
	合　　計		697

前年度に比べ活動依頼は減少しているが、保育施設や自宅・祖父母宅、子どもの習い事等への送迎は増えている。

しかし、まかせて会員・どっちも会員（子どもを預かることのできる方）のうち活動できる方が限られており、新しい会員の拡充を図ることが今後の課題となっている。ファミサポの活動内容や、養成講座、交流会を地域の方に、知っていただくためにも広報活動に努めていく。

また、現会員の研修時間が厚生労働省の推奨する研修時間数を充足するよう会員に講座の受講を促し、預かり時の事故防止等について引き続き講習会を実施していくこととする。

＜令和７年度研修会、交流会回数と内容＞

	回　数	参加人数	内　　容
研修会	１２	４９人	養成講座
交流会	5	１４７人	ファミサポ会員交流会
講演会	1	２０人	スキルアップ講座

⑨　地域支え合い推進（生活支援体制整備事業）

現在７期目の協議体（地域支え合い うたづ）は「ささえあいサービス」の令和８年度中の試行的始動に向けて、他市町のサービスの見学・聞き取りを行い、お試し活動を５回実施することで課題の抽出ができた。宇多津町独自のささえあいサービスとして「うたづちょこっとおたすけ隊」と命名し、要綱・関連資料を整備した。また、活動の広報として、ボランティア連絡協議会や民生委員児童委員協議会等にサービスの説明を行い、協力を求めることができた。

⑩　子どもの未来応援事業の推進

子ども食堂運営事業「陽だまり食堂」は、4 月から 7 月は 2 か月に 1 度、8 月以降は 1 か月に 1 度開催した。夏休みにはイベントを行い、小中学校のスクールソーシャルワーカーと連携しながら、新たな困窮世帯の子どもにも参加を促進することができた。また、前年度に参加していた世帯も参加してもらい、支援が必要な世帯に対して食堂に参加してもらったり弁当の配布を行ったりすることができた。

今後も新たに行える行事を模索し、ボランティアとともに「地域で子どもに関心を持つ人や、見守る人の目を増やすこと、家庭・学校以外の子どもの居場所をつくり、子どもを一人にさせないこと、子どもが様々な大人と関わる機会・体験を増やすこと」を目指していく。

令和７年度も宇多津ライオンズクラブ主催でバーベキュー行事を行っており、今後も継続予定である。町内の豆腐業者からは豆腐などを寄付していただき、地元の農家からは旬の野菜や果物の寄付をいただいた。地域業者としても食堂継続に関わっていただいている。参加費は食堂の日は大人 300 円子ども 100 円、弁当配布の日は大人子どもともに 200 円で、参加者数の実績については次のとおりである。

＜令和7年度子ども食堂運営事業　参加者数実績＞　　（単位:人）

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
子ども	23	0	32	0	91	22	38	34	18	35	56	16
おとな	11	0	18	0	42	9	18	15	10	19	38	9
ボランティア	8	0	7	0	10	11	0	8	10	10	28	12

⑪　うたづっこ育児用品レンタル・サポート事業の推進

宇多津町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援し、保護者の経済的負担を軽減することを目的に、チャイルドシート、ジュニアシート、ベビーカーのレンタル事業を行っている。

＜令和７年度育児用品保有数と利用数＞　　（単位:台、数）

	購入台数	寄付台数	破棄台数	合計保有数	返却数	貸出件数	年度末在庫
チャイルドシート	0	5	3	16	37	35	9
ジュニアシート	0	0	0	4	10	12	0
ベビーカー	0	3	4	10	21	26	3

レンタル事業品のメンテナンスや延滞に対する対処の課題があるが、育児用品の寄付については、広報誌に掲載すると反響があり、必要とする方にお譲りできている。この事業が円滑に進むよう家庭で不要になった育児用品の寄付受けについて、引き続き広報誌等で協力を依頼していきたい。

（２）　介護保険事業の充実

①　訪問介護事業（ホームヘルパー）の充実

令和５年度までとは違い、利用者の逝去や入院及び施設入所、介護保険改正による収入減少などに加えてヘルパーの高齢化により稼働が減少している。令和７年９月から部門変更により正規職員を１名配置し、責任者としての育成とともに徐々に従事サービスを増加している。

総合支援事業を利用する希望者は増加傾向にあり、事業拡大を図るうえでは要員確保のためのヘルパーの増員が必要である。登録ヘルパーの募集を行うとともに現在職員の人材養成の継続が必須であると考えている。

＜訪問介護事業の事業収入及び利用者＞　　（単位:千円、人数）

年　度	訪問介護事業収入	前年比	延べ人数	軽度生活支援事業収入
令和５年度	6,565	2.8%	403	530
令和６年度	6,085	▲7.3%	356	508
令和７年度	6,172	1.4%	379	552

② 居宅介護支援事業の充実

令和４年９月末の資格職員退職のため、ケアマネジャーが不在となっており、事業の実施が出来ない状況となっている。

人員の確保が喫緊の課題であり、居宅介護支援事業所として、利用者が地域において可能な限り自立した日常生活を営むことができるためにも１日も早い再開を目指し、継続して職員採用を行うとともに待遇などについても検討していく必要があると考えている。

③ 通所型サービスＡ事業所の充実

昨年度途中から利用者の施設入所などにより利用者がいない状況となっている。

施設の構造上利用者の大幅な増加は見込めない中、地域住民の生きがいづくり、集いの場としての利用、また、福祉の観点以外の活用も含めた検討を重ねていく。

（３） 障害者自立支援事業の充実

① 障害者福祉サービスの充実

居宅介護については、少しではあるが利用者が増加しているため収入についても若干増加している。ただ、今のところ同行援護のサービスが人員基準の関係上行えていないため今後基準を満たしてサービス再開としたい。

また利用者の増加のためには各相談支援事業所への働きかけが今後も必要である一方、事業拡大のためには登録ヘルパーの人材確保が必須である。各年度のサービスごとの収入の結果は、次のとおりである。

（単位：千円）

区　分	居宅介護	移動支援	同行援護	難病患者等	計
令和５年度	762	309	39	0	1,057
令和６年度	809	271	19	0	1,099
令和７年度	897	301	0	0	1,198

（４） 生活困窮者自立相談支援事業の推進

① 包括的かつ継続的な相談支援

生活困窮に関する課題は、経済的な問題のみならず社会的な孤立や医療問題、ＤＶ、障害等が折り重なって、複合的な問題を抱えており、本人だけでなく世帯全体が困窮しているため、世帯全体の支援に志向し、継続して取り組んでいる。

＜相談実績＞　（単位：件）

区分	年間合計	男性	女性	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
相談件数	55	33	22	2	7	2	14	7	7	9	7

② 生活困窮者支援を通じた地域づくり

生活困窮については、福祉教育や個別支援を通じて理解者を地域に増やしていくことで、支え合いの輪を拡げ、誰もが住み易く、排除しない地域を創造していくことが重要である。支える側と支えられる側が互いに支え合える地域づくりを目指している。

③ 香川おもいやりネットワーク事業の推進

宇多津町社会福祉協議会が社会福祉法人施設や民生委員・児童委員と繋がり、支援を必要とする方を「地域でトータルにサポートする仕組み」をつくることで、「香川型福祉でまちづくり」を目指している。

会議の開催状況は次のとおりである。

＜香川おもいやりネットワーク事業　宇多津担当者会　開催状況＞

開催日	場所等	協議内容等	参加者の内訳
R7.5.15	あみのうら交流センター	・社協で対応した事案報告 ・R7 年度の取組み内容について	社会福祉法人　4 名 民生・児童委員　3 名 社会福祉協議会　3 名
R7.8.7	あみのうら交流センター	・社協で対応した事案報告 ・まんでがん体操訪問について	社会福祉法人　4 名 民生・児童委員　3 名 社会福祉協議会　3 名
R7.11.13	あみのうら交流センター	・まんでがん体操訪問の報告 ・フードドライブについて	社会福祉法人　3 名 民生・児童委員　3 名 社会福祉協議会　2 名 香川県社協　1 名
R8.2.12	あみのうら交流センター	・おもいやりネットワーク現物給付の報告 ・社協で対応した事例検討	社会福祉法人　3 名 民生・児童委員　3 名 社会福祉協議会　3 名 香川県社協　1 名

	活動日	活動内容
地域協力活動	R7.5.15	第一回おもいやりネットワーク会議
	R7.8.7	第二回おもいやりネットワーク会議
	R7.9.26	まんでがん体操訪問(新町親交会)
	R7.10.6	まんでがん体操訪問(向山南)
	R7.10.14	まんでがん体操訪問(西町スマイル)
	R7.10.22	まんでがん体操訪問(今市)
	R7.11.10	まんでがん体操訪問(新開クラブ)
	R7.11.11	まんでがん体操訪問(田町南)
	R7.11.13	第三回おもいやりネットワーク会議
	R8.2.12	第四回おもいやりネットワーク会議

（５）　ボランティア活動の推進

①　ボランティア連絡協議会への参加及び協力

事務局として、毎月の定例会、総会及び研修会等に積極的に参加し、ボランティア活動を推進した。各ボランティア団体とは密に連携し、顔の見える関係づくりを心がけている。加入団体は２０団体となっている。

②　福祉・ボランティア体験の推進

「うたづっこふくしセミナー」「福祉体験学習」は、関係団体の協力を得て開催することができた。

夏休み中学生ボランティア体験学習及びボランティア銀行の運営を次のとおり実施した。

a　夏休み中学生ボランティア体験学習

例年多くの学生がボランティアに参加し、受け入れ先も充実している。近年はコロナ対策で活動自体に制限がかかり、受け入れ先が限定されていたが、令和７年度は、駅前清掃をはじめ次の事業が実施され、多くの参加が得られている。今後も学校と連携を取りながらボランティア活動を推進していく。

	開催日	受入先	学　習　内　容	参加人数
1	R7.7.23 R7.8.20 R7.8.27	社会福祉協議会	高齢者宅へお弁当を配達する	９名
2	R7.8.6	あみのうら交流センター 1階　いこいの広場	高齢者・乳幼児との交流	５名
3	R7.8.27	保健センター　4階	イベント･受付･手伝い	５名

4	R7.8.3 R7.8.17	JR 宇多津駅前	JR 宇多津駅周辺の清掃	４０名
5	R7.7.19	保健センター	うたづっこふくしセミナーの手伝い	１１名
6	R7.8.1	ドリームパラダイス	うどん作りの手伝い	９名
7	R7.7.30 R7.8.2 R7.8.5	NPO 法人メロディー	障がい児との交流	３名
8	R7.7.23 R7.7.24	ユープラザ宇多津2階	宿題のお手伝い （習字・ポスター等の製作）	８名
9	R7.7.24 R7.7.28	はぐはぐランドうたづ	親子との交流	５名
10	R7.8.6 R7.8.8 R7.8.22	南部すくすくスクエア	子どもとの交流	２０名
11	R7.7.24 R7.7.31 R7.8.7 R7.8.21 R7.8.28	保健センター4階	高齢者との交流	７名
12	R7.7.25 R7.8.1	保健センター4階	高齢者との交流（絵手紙・折り紙作り）	２名
13	R7.7.22 R7.7.29 R7.8.5 R7.8.19 R7.8.26	保健センター4階	高齢者との交流 （体操）	７名
14	R7.7.25	古街交流プラザ	高齢者との交流 （作品作り）	５名
15	R7.820	マイルドハート 21	高齢者との交流 （喫茶コーナーの手伝い）	５名
16	R7.7.24 R7.7.25	デイサービス一歩・いっぽ（浜のかぜ 1F）	高齢者とのふれあい （夏祭りのお手伝い）	６名

b　勇心酒造㈱ボランティア銀行の運営

ボランティア銀行事業の取組は、全国的に注目されている。宇多津町内小・中学校応援プロジェクトと連携し、住民総ぐるみで子どもたちの成長を応援し、子どもたちはボランティア活動をとおして思いやりの気持ちを育くんでいる。

（ａ）ハート数の推移

令和 7 年度のボランティア銀行の預金額は、774,241 ハートとなり、これまでの推移は以下のとおりである。

年　度	ハート数
令和 ５ 年度	７０８，２７１💛
令和 ６ 年度	７８５，１４６💛
令和 ７ 年度	７７４，２４１💛

また、各学校のハート数は以下のとおりである。

学　校　名	令和７年度(ハート)	令和６年度(ハート)
宇多津小学校	３３６，１２７💛	３９６，３０４💛
宇多津北小学校	３５１，０３８💛	２９７，２７８💛
宇多津中学校	８７，０７６💛	９１，５６４💛
合　　計	７７４，２４１💛	７８５，１４６💛

（ｂ）ボランティアハートの贈呈先一覧

贈呈先	贈呈品
はつはなオレンジカフェ	はつはなオレンジカフェ運営資金
民生委員更生保護女性会	オレンジリボンキャンペーン
サポリーナ	まんでがん体操、オカリナ教室運営資金
さくらカフェ	認知症オレンジカフェさくらカフェ運営資金
NPO 法人レスパスラボ	食生活を基盤にした子どもの体験活動
みんなで咲かそう花の会	みんなで咲かそう花の会活動資金
ボランティア推進委員会	ボランティア推進委員会活動資金
宇多津小学校	中庭緑地化事業 陸上クラブのユニフォーム購入事業 子どもの安全対策としての横断旗の配布事業購入事業
宇多津北小学校	陸上クラブのスパイク購入事業(スパイクピン含む) バトンクラブで使用するフラッグ購入事業
宇多津中学校	デジタルサイネージ設置費用
宇多津町社会福祉協議会	生活困窮者支援(フードバンク)、みんなのハロウィン小・中学校応援プロジェクト募金用ガチャガチャカプセル事業、善行賞にかかる費用

③　防災研修会の開催

令和７年９月１８日に宇多津町保健センターにて災害発生時における宇多津町の動き・地域での災害時対応についての講義を受け、ボランティアセンターの運営について考えるグループワークを行った。また、令和８年２月１

５日に宇多津町保健センターにて災害ボランティアセンターの実施訓練として、ロールプレイングを行い、実際に災害が起こった時にセンターを円滑に運営するためにどのような情報・工夫が必要かを考える研修となった。

（６） 福祉関係団体等活動協力と連携

① 民生委員・児童委員協議会との連携

社会福祉協議会の運営において、民生委員・児童委員との連携・協働は重要不可欠であり、相談事業をはじめとして、香川おもいやりネットワーク事業、高齢者や一人暮らしといった見守り情報の共有、高齢者見守り配食サービス、高齢者見舞金配布事業、共同募金活動、生活福祉資金貸付業務等において協力を得て事業を実施している。

今後とも、相互の会合及び研修等に積極的に参加し、より緊密に連携を継続していくこととする。

② 老人クラブ連合会・身体障害者協会への参加協力

事務局として、総会・定例会、各種行事への協力及び文書管理を行った。

③ 福祉団体への援助

ボランティア連絡協議会加盟の団体へ各種補助金等の提供を行った。

（７） 権利擁護の推進（法人後見事業）

認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者など意思決定が困難な人の判断能力を補うため、社会福祉協議会が成年後見人等となり、その権利を擁護するための事業を平成２９年４月より開始している。

今年７年度の新規受任件数は１件の実績がある。

（８） 法人運営の強化

① 自主財源の確保

自主財源確保には香典返しや一般寄付金の使途の明確化を進めるため、社協会費とともに寄付金等の意義など機会を捉えて周知・広報に努めている。

香典返しについては、葬儀のあり方の変化により家族葬が増加している影響とともに香典を寄附する染みのない人が増えている。令和２年度を境に低い実績で推移している。

年度ごとの状況は次のとおりである。

＜寄付金の推移＞　　（単位:件、円）

年　　度	香典返し		一般寄付		合計金額
	件　数	金　額	件　数	金　額	
令和 5 年度	1	25,000	14	385,500	410,500
令和 6 年度	1	10,000	17	205,528	215,528
令和 7 年度	1	30,000	17	300,000	330,000

令和７年度の社協会費は、例年企業に行っていた訪問を手紙の郵送のみとした結果、法人会員は前年度より減少した。今後も会費の意義と使われ方を法人、団体、個人に明確に説明し共感していただくことに努め、会員の増加に努めていきたい。

＜会員数の推移＞

年　度	社協役員	団体会員	個人会員	法人会員	会　費
令和 5 年度	7 名	78 団体	14 名	71 法人	596,200 円
	110 口	1,488 口	28 口	1,355 口	
令和 6 年度	11 名	67 団体	25 名	72 法人	594,500 円
	95 口	1,320 口	35 口	1,360 口	
令和 7 年度	8 名	73 団体	7 名	48 法人	595,900 円
	60 口	1,690 口	35 口	48 口	

② 広報・啓発活動（情報誌「社協通信」の発行）

社協事業を広く町民に周知する目的で情報誌「社協通信」を毎月発行し、町広報と同時に配布した。

③ 各種研修会等への参加

社協職員の資質向上を目指して県社協、県施設協会等の研修会に積極的に参加した。今後も香川県社会福祉協議会等が開催する研修その他業務遂行に有益と思われる研修についてはできる限り参加し、専門知識の取得を図っていく。

（９） その他福祉活動への協力

① 共同募金運動への協力

宇多津町共同募金委員会に協力して、募金活動に参加した。令和７年度は、目標額 3,000,000 円に対し 2,031,764 円を集め、県共同募金会に送金した。

また、期間拡大による募金活動「宇多津町内小・中学校応援プロジェクト

募金」を１月１日から３月３１日まで実施し、目標額 1,620,000 円に対し 1,931,796 円を集め、県共同募金会に送金した。

本町への助成金は地域福祉推進事業として、社会福祉協議会事業に 174,779 円、各種団体事業に 1,563,803 円の計 1,738,582 円、小・中学校応援プロジェクト事業として 1,488,096 円を助成することにより以下の事業を実施した。災害見舞金は 50,000 円のうち 0 円を実施した。

＜社会福祉協議会事業への助成＞

番号	事 業 名	事 業 内 容	助 成 額
1	一人暮らし高齢者見舞金配布事業	８０歳以上の１人暮らし高齢者のお見舞金費用	174,779 円
令和７年度社会福祉協議会事業助成額合計			174,779 円

＜各種団体への助成＞

番号	事 業 名 ／ 助 成 先	事 業 内 容	助成額
1	子育て支援事業 （ボランティア「モコモコ）	核家族化が進む新都市を中心に、地域の人が交流できるリフレッシュ講座を開催し、孤立しがちな母親を支援する。保育園児・学童保育の児童を中心に子供から高齢者まで楽しめる腹話術の講演を行う。	170,000 円
2	身障者外出支援事業 （身体障害者協会）	身体障害者の外出を支援することにより社会参加を促し、地域でいきいきと元気に暮らせることを目指す。	30,000 円
3	高齢者外出支援事業 （老人クラブ連合会）	高齢者の居場所づくり・外出を支援することにより社会参加を促し、会員同士の交流を図ることによって仲間づくりを行う。	30,000 円
4	子育て支援事業 （あおやま保育園）	子どもたちの大好きな水遊びができるようにワンタッチプールを購入した。	180,000 円
5	子育て支援事業 （青山幼稚園）	動物、野鳥などの糞・尿などの防止、雨・風などの影響を受けにくいように、砂場用メッシュシートを購入した。	132,000 円
6	環境衛生推進事業 （婦人会）	ゴキブリ団子を地域住民に配布することにより、町全体の衛生状態を向上するだけでなく、地域住民の交流が生まれ地域力を高めることが出きる。	85,441 円

7	講演会の開催とこども食堂に関わるイベント開催事業 (NPO 法人メロディー)	子ども食堂の補助金として活用。イベント等人が集まりやすい日に「まかない屋」や「みんなの食堂」を開催することで継続して利用しやすくなった。「めろフェス」では障がいを持つ方々のアート作品展示や一緒に体験するコーナーを設けることで自然と関わる場面を設定した。	150,000 円
8	子育て支援事業 (認定こども園 香川短期大学附属幼稚園)	木製のテーブルとイスは、温かみがあり予想以上にどっしりとしているので、小さい子どもたちも安心して使うことが出き、大変人気となった。	142,000 円
9	手話ボランティア養成事業 (手話サークルにこにこ)	助成金の中から手話教本や DVD を購入して会員のレベルアップになるような学びができ、様々な場所でろう者の生活相談などの支援ができるようになる。	30,000 円
10	障がい者支援事業 (ドリームパラダイス)	LED 照明器具を購入し、室内の明るさが大幅に向上し、利用者が安心して活動できる環境が整った。	100,000 円
11	傾聴ボランティア養成事業 (傾聴ボランティア「コミコミ」)	傾聴のレベルアップを図ることによって、苦しみや悩みをじっくり聴いて共感することができ、孤独や不安を軽減させることができる。	8,932 円
12	子育て支援事業 (平山こども園)	体操マットを購入し、マット運動により体幹を育てるだけでなく、前転などのより三半規管の発達を促した。	92,000 円
13	子育て支援事業 (わかくさこども園)	発達段階にある乳幼児期において心身の健康増進や集団での生活環境の中、園庭での遊びを通じて協調性と運動能力の向上を図るため、本事業を実施した。熱中症防止対策のため、日よけテントとミストアーチを購入し整備した。	150,000 円
14	子育て支援事業 (わかくさ北こども園)	子どものための運動機能を育てるため、巧技台を設置する。	140,000 円
15	国際文化事業 (せとうち国際文化の会)	シンポジウムを開催することで、宇多津町の文化や観光、また外国人観光客や移住者に対する理解を深めてもらい身近に国際交流ができる。	23,430 円
16	お話し会の備品整備事業 (おはなしれっしゃ)	助成事業で購入した備品を使って絵本の読み聞かせやわらべうたが更に充実して、子ども達やその保護者、高齢者と幅広い年代の方に広める活動ができ、喜んでもらえた。	100,000 円
令和 7 年度一般募金助成合計額			1,563,803 円

＜小・中学校応援プジェクト募金助成金＞

番号	事 業 名 ／ 助 成 先	助 成 先	助 成 額
1	中庭緑地化事業	宇多津小学校	229,846 円
2	陸上クラブのユニフォーム購入事業	宇多津小学校	167,021 円
3	子どもの安全対策としての横断旗の配布事業	宇多津小学校	37,936 円
4	陸上クラブのスパイク購入事業（スパイクピン含む）	宇多津北小学校	155,050 円
5	バトンクラブで使用するフラッグの買い替え事業	宇多津北小学校	130,550 円
6	宇多津を元気にする中学生の広報啓発事業	宇多津北小学校	360,000 円
7	ボランティア銀行事業	社会福祉協議会	407,696 円
令和７年度プロジェクト募金助成合計額			1,488,096 円